

校長だより

和歌山市立八幡台小学校

2023.3.15

NO, 7 5

オーストリアの首都ウィーンの郊外にハイリゲンシュタットという小村がある。難聴を患ったベートーベンはここに隠れるように滞在し、弟らにあて手紙を書いた◆<心の底から喜ぶということが、もうずっと私にはない。いつかまたそういう日が来るのでしょうか？ もう決して来ない？ そんな、それはあまりに残酷です>。これを書いたのち、ベートーベンの絶望を克服する生涯が始まる。交響曲第6番 田園などの名作を生み出していく◆音楽とスポーツは違う。としてもWBCチェコ戦に先発した佐々木朗希投手の一球一球が、希代の作曲家の交響曲のように感じられないだろうか◆東日本大震災で父と祖父母を亡くした9歳の遺児が12年後の3月11日、大舞台に立った。栗山英樹監督の采配かということ、ただちに言い切れない。3人の力ある先輩投手がいて、実績や日程からもチェコ戦は適所の投入だろう。野球の神様の企てのように被災日の登板が巡り来た◆剛速球だけではない。21歳の若者がマウンドから見せているものは何だろう。歴史には喜びを忘れた日から「歓喜の歌」にたどりついた人がいる。

<読売新聞 編集手帳 3/14>

このコラムを読んで、本校の子どもたちにも伝えたいなと感じたので掲載してみました。ベートーベンのことは詳しくは知らなかったのですが、佐々木投手とともにとても大変な状況、環境からの頑張りがあったんだなと、心が熱くなりました。結果、成果、実績が素晴らしいのは言うまでもなく、そこに行きつくまでの過程、取り組みがすごかったんだろうなと感じています。私たちは自分の置かれている状況で頑張るしかないのですが、このような出来事を知ることで、自分の「やる気」や「元気」が触発されるような気がします。「人の頑張りが自分の行動のモチベーションを高めてくれるような気がする」、子どもたちにはいろいろな話、出来事を紹介していければと考えています。

今後の予定

17 (金) : 6年生と1~4年生の「お別れ会」

20 (月) : 第42回「卒業式」

24 (金) : 3学期終業式

31 (金) : 離任式

本年度も残りあとわずかとなりました。学校としては、一つ一つの行事をしっかりとおこなってきたいと考えています。

卒業式を控え、6年生は小学校すところ数日、やれることをしっかりとやってほしいなと思います。小学校の記憶、自分の心にしっかりと刻んでいこうな。6年生、最後までがんばれ！！